

(3)-11)

主体者／ 連携・協力先	一般社団法人日本カーシェアリング協会、石巻エコEVカーシェアリング検討委員会/ 石巻市、石巻専修大学、東北大学、石巻仮設住宅自治連合推進会
取り組み名称	被災地発・地域発コミュニティ・カーシェアリングによる地域活性化
取り組みポイント	■ (1) 地域交通の取り組み □ (2) 情報利活用の取り組み ■ (3) 生活基盤への取り組み
取り組み課題	公共交通活性化・地域活性化

<取り組みの概要>

東日本大震災最大の被災地の一つである石巻にて、日常生活の必須手段である自動車を失った地域住民に対し、全国から寄付を受けた車両を提供し、所有・共同利用と経費分担で運用する手作りの・草の根的カーシェアリング。

1台の車の共有から始まった活動は、いくつもの仮設団地に拡がっていくと共に、車の共用を介しての利用者の話し合い・関わり合いの関係形成から、被災により分断された住民のコミュニティの再生を促し、他では難航していた自治会形成にも寄与したことから地元行政の理解と信頼も得て、現在では107台の車両の運用を支援するまでに至っている。

★石巻で実際に活用された事例



さらに、三菱自動車から提供された電気自動車 (EV) は、その給電機能を活用し、日常からお祭りやイベント等で屋外用電源としてお茶・コーヒー出しや照明ほかに利用することで、非常時にも同機能をスムーズに使え、地域の防災力を高めるものともなっている。さらに、同市吉野町復興公営住宅には太陽光発電、蓄電池、パワコン、充電器等から成り、かつ移動可能なEV用充電システムを設置、稼働しており、H27年度から地域総合防災訓練の際に、同施設で充電したEVが他の避難所に駆け付け給電を行う訓練も実施している。



翌H28年度の際には地元車ディーラー、一般市民、市などのEVも加わりその規模が倍増し、その輪は着実に広がっている。また復興公営住宅におけるコミュニティ・カーシェアリングは、UR都市機構などの協力も得てH29年度以降、他の複数の住宅にも展開予定となっている。さらに、北上・雄勝・牡鹿など過疎化の進む半島部への地域交通再生に資するべく、他交通手段との連携により持続的な新たな地域交通システムづくりにも着手している。

H28年10月に開催した第1回コミュニティ・カーシェアリングシンポジウムでは、オーストリアのコミュニティ・カーシェアリングとの事例共有と交流を契機に、関係者が同じテーブルに付く体制を実現したと共に、地方自治体のオープンデータ化の動きにも連動して検討を進めている。

<取り組みポイントについての具体的説明>

(3) 生活基盤への取り組み

本カーシェアは、運転可能な利用者のみでなく、そうしたドライバーが運転できない他の高齢者等を乗せて、買い物や通院などの送迎を行うライドシェアの活動も自然に発生し、自助・共助(助け合い)を基軸にしたコミュニティづくりも伴う生活基盤構築に大きな役割を果たしている。運転できる利用者だけでなく、同乗のみでの利用者も同等の会員となり、さらに、日常生活では移動に不便はないもののEV温泉旅行などイベント時のみ参加する会員もいるなど、多様な利用形態を受容する柔軟さは、このカーシェア活動をコミュニティ全体が受容する基盤ともなっている。被災により元のコミュニティが分断された仮設住宅団地において、このカーシェアを始めた利用者らが団地内の清掃活動から、他では成立に困難が多かった自治会組織づくりが円滑に進んだことは、本活動が単なる一交通手段から、これからの地域社会を支える主要な生活基盤・社会基盤となる大きな可能性を示していると言える。

さらに、EV(電気自動車)を利用したところにおいては、災害時における電力供給機能をお茶会やピクニックといった普段の活動から使い慣れておくことで地域の防災・減災力を高めるものともなっている。東大・東北大の連携による文科省プロジェクトで構築された、非常時に避難所拠点において電力不足が生じた際に周辺のEVが駆け付け給電を行えるなどの機能を有するシステムとの連携により、さらに新しいモデルに発展する期待も大きい。



(1) 地域交通の取り組み

今後のカーシェアの展開先として石巻市から要望されているのは、北上・雄勝・牡鹿などのより交通が不便な半島地域である。現状でも、一部のカーシェア利用者がボランティア的にこれら地域への送迎等を行っている例はあるが、往復の負担が大きく持続的な運用には課題が多い。そのため、ハブ&スポークを考慮した当該地域交通のネットワーク化と、他交通手段との連携を意図し、上述した第1回コミュニティ・カーシェアリングシンポジウムの機会を活かし、JR東日本、宮城交通(ミヤコーバス)、および当該地域タクシー会社等を集めたクローズド会合を併催し、また市の協力を得て地域のバス交通などのデータのデジタル化に着手している。また平成24~28年度の5年に渡る文科省プロジェクトにより、プローブデータ収集機能、EV向けナビ機能などを備えたスマホアプリの試作導入運用を行っている。



参考:

- ・鈴木、吉澤、奥間、竹中、「東北被災地発のコミュニティ・カーシェアリング」、第14回ITSシンポジウム2016。(別添)
- ・復興庁 「新しい東北」事例集(事例6): http://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-11/send0/1702_new_tohoku_casebook.pdf
- ・石巻カーシェア道中記: http://www.japan-csa.org/dl/2016/douchuki_2016.pdf
- ・コミュニティ・カーシェアリング実践ガイドブック: <http://japan-csa.up.seesaa.net/image/Yoshi-Yattemiyou.pdf>